

製品名: ICAD ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86880**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000
分子量	Calculated MW:37 kDa; Observed MW:45 kDa

抗原情報

遺伝子名	ICAD
別名	DFF1; ICAD; DFF-45
遺伝子ID	1676
SwissProt ID	O00273
免疫原	ヒトICADの合成ペプチド

背景

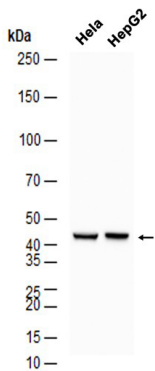
アポトーシスは、哺乳類の発生過程において、毒性のある細胞や不要な細胞を除去する細胞死のプロセスです。アポトーシスのプロ

セスは、細胞と核の収縮と断片化、そして染色体 DNA のヌクレオソーム単位への分解を伴います。DNA 断片化因子 (DFF) は、40kD (DFFB) サブユニットと 45kD (DFFA) サブユニットからなるヘテロ二量体タンパク質です。DFFA はカスパーゼ 3 の基質であり、アポトーシスにおける DNA 断片化を引き起こします。DFF は、カスパーゼ 3 によって DFFA が切断されると活性化されます。切断された DFFA 断片は、DFF の活性成分である DFFB から解離します。DFFB は、アポトーシスにおける DNA 断片化とクロマチン凝縮の両方を引き起こすことが分かっています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



ICAD ウサギモノクローナル抗体を 1:5000 で使用して、HeLa、HepG2 細胞抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。